

# 船小ハイブリッドパワー

## —学校と家庭を結ぶ—

校長室だより

No. 1 【創刊号】

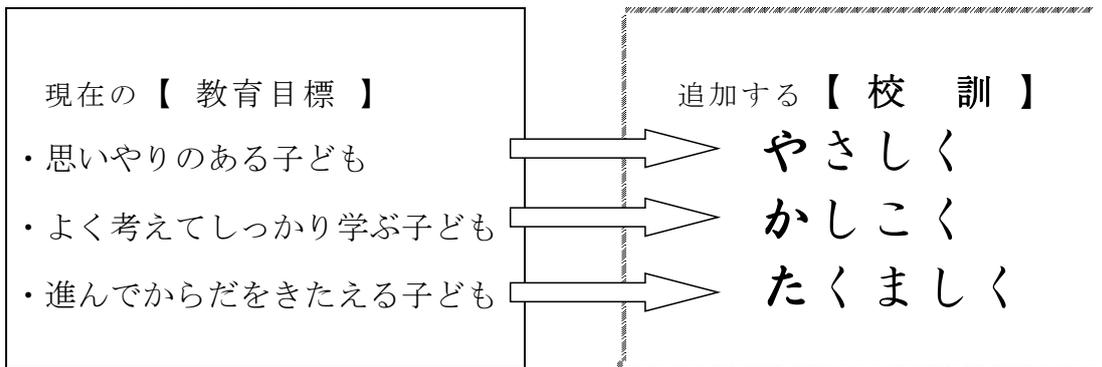
令和3年4月12日

文責 安生昌弘 あんじょう ちかひろ

船引小学校では、3月に校長を含む14名の教員と1名の事務職員、3名の市職員、合わせて18名の教職員が転出し、4月にわたくし校長と主幹教諭(H30年度からの新しい職)を含む14名の教員と1名の事務職員、1名の常勤外国人英語指導助手、4名の市職員、合わせて20名が転入となりました。(内2名は職種の変更) 船小は常時学校にいる教職員数が55名で、毎年4分の1、14名位の異動が平均的な件数なので、規模が大きい人事異動だったと言えます。わたくし共々、転入者をよろしくお願ひします。

さて、前期始業式で子どもたちに自分に合った目標を立てる大切さについて話しました。その時、船小の教育目標を見ずにスラスラ言えるかを訊いたところ、言える子どもは、あまり居なかったようでした。正直に言うと、わたくし自身も小学生の時、教育目標の存在すら知らなかったように思います。(-\_-;)

そこで、子どもたちに常に理想の自分を求める気持ちを育てたいと思い、「校訓」を設けることとしました。常に心にあり、自分自身を応援する言葉になってくれることを願っています。



頑張ろうとする子どもたちをチームとなって指導するための教職員のスローガンを次のように設けることとしました。

### 本気と礼節の教育

【本気】ひたむき・一所懸命・集中・夢中…

【礼節】礼儀正しさと思慮深さ

わがまをしない・自立から自律へ

「本気」は校歌2番の「♪何でも本気で 元気よく…」から来ています。礼儀正しく落ち着きがあり、ひたむきに頑張る子どもたちの姿を全教職員の力で実現していくために掲げました。

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上のカ(パワー)で効果的に子どもたちを育てていきたいと願ひ、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。不定期で配付いたしますので、よろしくお願ひします。